



被害を最小限に

1人で消せるだろうと考えず、隣近所に火事を知らせ、すみやかに119番通報を。
初期消火で火事を消せなかったら、すばやく避難しましょう。

初期対応の3原則

1. 早く知らせる

- 「火事だ」と大声を出し、隣近所に援助を求める。声が出なければやかんなどを叩き、異変を知らせる。
- 小さな火でも119番に通報する。当事者は消火に当たり、近くの人に通報を頼む。

2. 早く消火する

- 出火から3分以内が消火できる限度。
- 水や消火器だけで消そうと思わず、座布団で火を叩く、毛布で覆うなど手近なものを活用する。

3. 早く逃げる

- 天井に火が燃え移った場合は、すみやかに避難する。
- 避難するときは、燃えている部屋の窓やドアを閉めて空気を絶つ。



覚えておこう!

火元別の消火方法

●コンロ

- 油鍋に水をかけるのは厳禁。
- 消火器は離れた位置から、鍋の全面を覆うように向けて噴射する。
- 消火器がない場合は、シーツやバスタオルをぬらして手前からかぶせ、空気を遮断する。

●衣類

着衣に火がついたら、転げまわって火を消す。風呂場に残り湯があれば、浴槽に飛び込む。

●電気器具

いきなり水をかけると感電の危険があるので、コンセントから抜くかブレーカーを切り、消火器で消火する。

●ストーブ

- 消火器は直接火元に向けて噴射する。
- 消火器がない場合は、シーツや毛布などをぬらして手前からすべらせるようにかぶせ、空気を遮断する。

●たばこ

寝たばこなどにより、布団などの綿製品が焦げた場合は、消したつもりでも見えないところに火種が残り、再び燃えだすことがあるので、浴槽などにつけ完全に消す。

●カーテン・ふすま・障子

- カーテンは燃え広がる前に水をかける。できればレールから引きちぎり消火する。
- ふすまや障子などはけり倒して、踏み消す。その後、水をかけてしっかり消火する。

●たき火

- 消火器を使う。消火器がない場合は水や土で消す。
- 水の準備ができていない場合は、ほうきや木の枝でたたいて消し、その後、水でしっかり消火する。

覚えておこう!

消火器の使用法

粉末・強化液消火器の場合



安全ピンに指をかけた上に引き抜く

ホースをはずして火元に向ける

レバーを強く握って噴射する

消火器のかまえ方

- 風上に回り風上から消す。炎にはまともに正対しないように。
- やや腰を落として姿勢をなるべく低く。熱や煙を避けるように構える。
- 燃え上がる炎や煙にまどわされずに燃えているものにノズルを向け、火の根元を掃くように左右に振る。





避難と予防

もっとも大切なのは、身の危険を感じたときに一刻も早く避難することです。服装や持ち物などにこだわらず、次のポイントを押さえながら、できるだけ早く避難してください。また、一度逃げ出したら、絶対に戻らないようにしましょう。

避難ポイント

●2階から脱出するときは

ロープや縄ばしごを使って避難する。シーツやカーテンをつないだものでも代用できる。やむを得ず飛び降りるときは、布団やマットレスなどクッションになるものを落とす。

●ビルにいるときは

上の階から出火した場合は、階段を使って下へ逃げる。下階から出火した場合は、外階段から逃げる。もし下へ逃げられないときは、屋上の風上側で救助を待つ。エレベーターは絶対に使わない。

●炎の中を通るときは

迷わずに一気に走り抜ける。ぬらしたシーツを体全体に巻きつけると効果的。

●閉じ込められたときは

ドアのノブが熱い場合、廊下は高温状態の危険性もある。危険な場合はドアから出ず、ぬらしたタオルなどをドアのすき間などに埋めて防御し、窓を開けて逃げ遅れたことを外の人に知らせる。

防災 チェック ポイント

本当に恐ろしいのは煙です!

火災で発生する煙には、一酸化炭素などの有毒ガスが含まれています。吸い込むと中毒などにより命を落とす危険性があるので、次のポイントに気をつけながら避難しましょう。

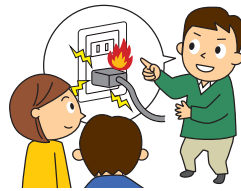
- ぬらしたタオルやハンカチなどで、口と鼻を覆う(無理な場合は、ネクタイや衣類で代用する)。
- 短い距離なら息を止め、一気に走り抜ける。
- できるだけ姿勢を低くする。
- 視界が悪いときは壁づたいに避難する。



覚えておこう!

火元別の予防と対処

ほとんどの火災は、私たちが注意することで防ぐことができます。火災を防ぐためのポイントをきちんと学び、日ごろからみんなで注意し合うようにしましょう。



●コンセントからの出火

コンセントからの出火は日ごろの予防で防ぐことができます。ほこりやゴミがたまっていたり、多くのプラグが差し込まれていると発火の原因となります。定期的な掃除を行い、多くのプラグ差し込みをやめましょう。

●たばこからの出火

灰皿にすいがらがたまっていると消したつもりでも火種が残っていることがあります。火の始末は確実にしましょう。また寝たばこは絶対にやめましょう。

●ストーブからの出火

火がついた状態で動かしたり、洗濯物・紙などの燃えやすい物が近くにあると出火の原因になります。スプレー缶なども熱せられると爆発の危険性があるので近づけないようにしましょう。

●金魚ばちなどからの出火

太陽光線があたって、金魚ばちやペットボトルがレンズになって出火することがあります。このようなレンズの役目をする物は、置き場所に十分注意しましょう。

●コンロからの出火

- てんぷらなどの揚げ物を調理する場合、油に火が付くことがあります。また、鍋の空焚きによる出火も多くみられます。調理する場合は少しの間でも目を離さないようにしましょう。
- 出火した場合には水を掛けて消火するのではなく、必ず消火器で消しましょう。

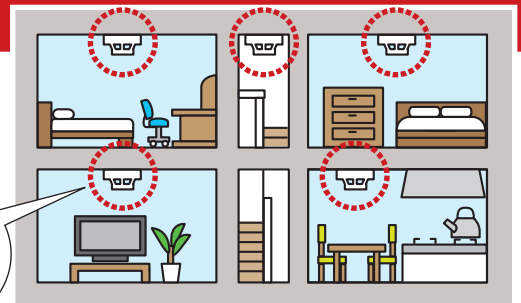
火災予防が一番!! —住宅用火災警報器の設置義務化—

消防法により、住宅用火災警報器の設置が義務付けられています。火災による死傷者を無くすためにも設置しましょう。

火災警報器の 設置場所

- 寝室…すべての寝室(子ども部屋や老人の居室など就寝に使われている場合は対象となります)への設置が必要です。
- 階段…寝室のある部屋の階段の天井などへの設置が必要です。
- 台所…台所への設置もおすすめします。

住宅用火災警報器は、設置して約**10年**が交換の目安です!



林野火災 注意報・警報

令和8年1月1日より「林野火災注意報・警報」の運用が始まりました。

注意報・警報発令時には「火の使用の制限」に従う義務が課せられる場合があります。発令状況や発令基準など詳細は市ホームページで確認できます。

